



中山道69次を歩く(7)

美濃入り、関ヶ原など巡る

美濃路に入ると、名古屋在住の

同期生や関ヶ原町在住の同期生が

参加するようになり、高校卒業以来の積もる話で一段と楽しい。

第19回(11月26、27日)は加納

宿への物資の運搬で栄えた鏡島湊

跡を通り、橋を渡り、長良川の対岸の河渡宿へ。長良川の渡して栄

えたが、水害に悩まされ、江戸後期に幕府の援助で宿全体を盛り土

したとのこと。条里地割が残り、道路や田んぼが直交する道を歩

き、美江寺宿へ。

美江寺宿は濃尾地震の震源に近

かったため、本陣をはじめとして、ほとんどが倒壊した。唯一倒壊せ

ずに残った造り酒屋の建物は、今も太い柱と梁が支えている。

大垣で宿泊し、翌日、赤坂宿に

向かう。杭瀬川の橋を渡った先にある赤坂港跡には立派な川燈台が

あり、昔の繁栄がしのばれる。

田んぼの中の街道を歩くと、雪化粧した伊吹山が見えてきた。し

ばらく歩くと広大な

な美濃国分寺跡。

相川を渡ると垂井宿である。垂井の

泉は、今も清らかな水がわき出している。

第20回は今年最

初の旅。3月24日、垂井から関ヶ原宿

に向かう。彼岸過ぎというのに風が

強く寒い。

間の宿・野上

を過ぎると樹齢300年の松並木



関ヶ原・笹尾山石田三成陣跡

がみごと。すぐ先の桃配山は関ヶ原合戦の家康最初陣地である。関ヶ原古戦場は、町の史跡ガイ

翌日は、古い宿場の建物が所々に残る街道を歩き、西の首塚を手を合わせる。不破の関跡を過ぎ、

じりの強い風に向かって歩く。美濃、近江国境は50坪ほどの小川。寝物語の里を通り、楓の巨木の

65期が初優勝 ゴルフ期別対抗戦



すさまじい低気圧が通り過ぎた翌日の4月4日(水)、17回目のゴルフコンペが千葉CCC川間コースで開催された。54期から69期までの精鋭47人が集い、出場

者数は過去最多。当日は終日、冷たい風が吹き荒れ、厳しい条件のなかでの熱戦となった。

結果、個人戦は森則雄さん(65期)がグロス85、ネット67、5アンダーという好スコアで優勝。準優勝は花房伸吉さん(54期)、3位に北住不二男さん(63期)が続いた。ベスグロは池田恵一さん(65期)がグロス84で獲得。

また、滝澤関東同窓会会長から贈られた、第17代会長にちなむ「17位特別賞」は秋葉光廣さん(55期)の手に。4人以上の参加者の期(7チーム)で争われた期別対抗戦は、上位入賞者(1、4、8位)を確保した65期が2位以下を大きく引き離して初優勝を飾り、今回は65期の活躍が目立つ結果となった。

プレー後のパーティーは参加者が多いため全員のスピーチは無理で、入賞者と初参加者だけがあいさつした。

次回コンペは10月30日(火)。場所は同じく千葉CCC川間コースで開催の予定。

ゴルフ同好会幹事 上原昇(65期)